

プレゼンテーション資料作成作業への
Rule of Three 適用支援
 物質・材料研究機構
 光材料センター
轟 眞市

Slide 1

内容
 プレゼン資料に Rule of Three を！

ソースの書法
 必要最小限の命令は何か？

ソースの管理
 どのように手間を省いているのか？

その波及効果
 どんなご利益があるのか？

Slide 5

背景 **Rule of Three**

- 列挙する数を **3つ** にすると、印象に残り易い
- 重要な事項は **3回** 提示すると、印象に残り易い
- **プレゼン全体にも適用** すると、印象に残り易い

Slide 2

ソースの書法 **Rule of Three: 全体適用**

内容 プレゼン資料に Rule of Three を！ ↓ Slide 19

ソースの書法 **結論** プレゼン資料に Rule of Three を！
 必要最小限の **ソースの書法**
 定型文字列のマクロ定義、色指定、...

ソースの管理
 どのように手 **ソースの管理**
 用途に応じたテンプレートの自動生...

その波及効果
 どんなご利益 **その波及効果**
 執筆工程も配布資料も見通しが良い...

↑ Slide 5
 ⇒ マクロ機能で頻出語句を一元管理

Slide 6

背景 **Rule of Three: 全体適用の難しさ**

1. 序論 (話題1) Why LaTeX? (話題2) What class? (話題3) What tools? (まとめ1) Macro!

2. 本論 (話題1) (話題2) What class? (話題3) What tools? (まとめ1) Macro! (まとめ2) Seminar! (まとめ2) Seminar! (まとめ1) Macro! (まとめ2) Seminar! (まとめ3) Ruby!

3. 結論 (話題3) What tools? (まとめ3) Ruby!

- 同じ文字列・デザインが頻出
- ご利益 vs. 手間

プレゼンツールの問題 ←

Slide 3

ソースの書法 **マクロ定義で文字列の再利用**

内容 プレゼン資料に Rule of Three を！ ↓ ソース

ソースの書法 % マクロ定義
 必要最小限の `\def\TitleA{ソースの書法}`

ソースの管理 `\def\TitleB{ソースの管理}`
 どのように手 `\def\TitleC{その波及効果}`

その波及効果 % マクロ呼出し
 どんなご利益 `\textcolor{blue}{\fbox{\TitleA}}`
`\textcolor{green}{\fbox{\TitleB}}`
`\textcolor{red}{\fbox{\TitleC}}`

↑ Slide 5

Slide 7

背景 **プレゼンツールの歴史**

'95 seminar.cls v1.0 利用開始 v1.4 prosper.cls v1.0h v1.6 powerdot.cls

PowerPoint since '87

KeyNote for Mac 応用物理学会 PC プロジェクト全面導入

Slide 4

ソースの書法 **オーバーレイ指定**

内容 プレゼン資料に Rule of Three を！ ↓ ソース

ソースの書法 % prosper.cls の場合 (色指定等は省略)
 必要最小限の `\overlays{3}{`

ソースの管理 `\begin{slide}{}`
 ... \fbox{\TitleA} ...

その波及効果 `\fromslide{2}{\fbox{\TitleB}...}`
`\fromslide{3}{\fbox{\TitleC}...}`

↑ Slide 5

Slide 8

ソースの書法 見出しとタイトル

背景 Rule of Three ↓ ソース

```

% prosper.cls の slide 環境の引数は空にする
\begin{slide}{}
\Paagetop{red}{背景}{Rule of Three}
\end{slide}
% seminar.cls の article オプションを使いたい為
\newcommand{\Paagetop}[3]{%
\textcolor{#1}{\Myframe{#2}}\llap{#3}}
\newcommand{\Myframe}[1]{...#1...}
    
```

↑ Slide 2

Slide 9

ソースの管理 seminar から prosper への変換

- 執筆するファイル: `texconf.tex`

```

\documentclass[article,dvips]{seminar}
\usepackage{SEMtdrk} % prosper 命令の無効化
\begin{slide}
        
```
- 変換後のファイル: `texconf+ppr.tex`

```

\documentclass[pdf,slideColor,tdrk]{prosper}
%\usepackage{SEMtdrk}
\begin{slide}{} % slide-title 引数は空
        
```
- 必要に応じて `\newif\ifProsper` を定義し、`\ifProsper\else\fi` を利用

Slide 13

内容

プレゼン資料に Rule of Three を!

ソースの書法

定型文字列のマクロ定義、色指定、オーバーレイ指定

ソースの管理

どのように手間を省いているのか?

その波及効果

どんなご利益があるのか?

Slide 10

ソースの管理 無効化する prosper 命令

```

% オーバーレイ関連命令
\newcommand{\overlays}[2]{#2}

\long\def\fromSlide{%
\@ifstar\fromSlide@E\fromSlide@NE}
\long\def\fromSlide@NE#1#2{#2}
\long\def\fromSlide@E#1#2{}
% \onlySlide \untilSlide も同様

\newenvironment{itemstep}{\begin{itemize}}%
{\end{itemize}}
    
```

Slide 14

ソースの管理 執筆工程

```

$ mkdir texconf
$ cd texconf
$ texinit --ppr # テンプレートと Makefile の生成
$ make edit # テンプレート (seminar.cls) の編集
$ make # プレゼン資料 PDF (prosper.cls) の作成
$ make sem8view # 配布資料 PDF の作成 (psnup 経由)
$
    
```

- `make` から、文書クラスを `seminar` から `prosper` に書き換える自作スクリプトを起動

Slide 11

内容

プレゼン資料に Rule of Three を!

ソースの書法

定型文字列のマクロ定義、色指定、オーバーレイ指定

ソースの管理

用途に応じたテンプレートの自動生成、Makefile の整備

その波及効果

どんなご利益があるのか?

Slide 15

ソースの管理 テンプレートと Makefile の自動生成

```

$ head -1 `which texinit`
#!/usr/bin/ruby
$ texinit --help
usage: texinit [ --ppr [ --double ] ] [ --jp ]
$
    
```

- 単純三部形式、**複合三部形式** (3×3, 文献 [2] 参照)
- 英語、**日本語**
- latexmk と自作スクリプトを呼び出す Makefile

Slide 12

その波及効果 見通しの良い執筆プロセス

鳥の目と蟻の目 翻訳も楽

Slide 16

その波及効果 見通しの良い配布資料

```

\documentclass{article}{seminar}

```

ただし、ポスターに流用するべからず! => 文献 [3]

Slide 17

その波及効果 啓蒙活動に対する評判

- プレゼンセミナー講師依頼 (TeX の話題は含まず)

- 文献 [4] を Scribd で公開 ('08/9~)
>1200 views, ★★★★★ by 2 readers

Slide 18

結論 プレゼン資料作成作業への Rule of Three 適用支援

ソースの書法
定型文字列のマクロ定義、色指定、オーバーレイ指定

ソースの管理
用途に応じたテンプレートの自動生成、Makefile の整備

その波及効果
執筆工程も配布資料も見通しが良い。外部の評判も上々

プレゼン資料公開@ eSciDoc <http://pubman.mpd.l.mpg.de/>

Slide 19

参考文献 ※ URL は予稿参照

- [1] 轟 真市：“プレゼンテーションと情報管理” (2004).
- [2] 轟 真市：“だからセルフアーカイビングはやめられない！”，第 1 回 SPARC Japan セミナー 2009.
- [3] 轟 真市：“ファイバヒューズの自然停止に伴う 2 重周期的空孔列の生成”，日本セラミックス協会 2006 年年会講演予稿集，東京都目黒区，p. 220 (2006). (2P134).
- [4] 轟 真市：“セレンディピティを高めるプレゼンテーション技術 (連載全 6 回)”，工業材料，55，8～翌 3 月号 (2007～2008).

Slide 20